

飛鳥藤原地域出土 基壇外装石の三次元計測

本研究所が所蔵する飛鳥藤原地域から出土した二上山白色凝灰岩製の基壇外装石にたいして、三次元レーザー測量調査を実施した。遺存状態が良好で、かつ飛鳥時代の基壇外装石の用法・加工技術を理解する上で重要となる以下の3点を抽出し、計測および観察をおこなった。計測作業は㈱共和の協力を得て、コニカミノルタ製VIVID910を使用して実施した。

1は、大官大寺第6次調査時に講堂SB500の基壇北縁から出土したものである(『藤原概報10』)。現状は平面三角形形状を呈するが、1左端には側面から直角に折れ曲がる平坦面がわずかに残存しており、本来は方形に加工された切石と判断できる。残存幅は72cm、同奥行は33cmで、厚さは67.5cmを測る。各面の加工は、上面が平滑であるのにたいして、側・下面では粗作り時の凹凸が残存する。上面は全体的に磨滅を受けるものの、部分的にチョウナ叩き技法による筋状の痕跡が残存しており、同技法を密に施して直線的な形状を作り出した様子がみてとれる。なお上面には、側面から約16cm奥に橙褐色土が帯状にこびり付いた部分があり、同部分を挟んで前後で土による変色具合が大きく異なる。使用時には、汚れが目立たない奥(基壇)側には上部に別の石材が載せられ、変色が顕著な見付側は地上に露出していたものと推測される。地覆石ないしは延石に該当すると考えられるが、地覆石の場合、通常、上面に羽目石を受けるための段を設ける。それがみられないことから、本例は延石として使用された蓋然性が高い。すなわち、大官大寺講堂基壇は延石を備えた壇上積基壇であったと推測される。

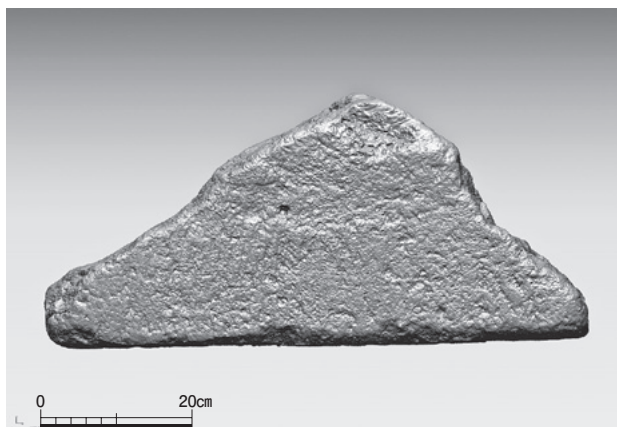
2は、豊浦寺第3次調査に際して、講堂と目される礎石建物SB400をめぐる石組溝SD405にもなって検出されたものである。厳密には石組溝SD405を区画する石列SX404に転用されていたもので、転用された基壇外装石の存在や下層出土土器の年代から、SD405は奈良時代以降の付設と判断されている(『藤原概報16』)。石材の現状は、直角二等辺三角形を呈し、直交する二辺の長さは39~40cm、斜辺の長さ55cm、厚さは15cmを測る。直交する二辺の縁に沿って一方の面にのみ幅約3cmの段が巡る。概報が記す「基壇隅に用いた地覆石と思われるもの」に

あたるとみられる。そのようにみた場合、外縁の幅3cmの段は田辺分類C類(田辺征夫「古代寺院の基壇」『原始古代社会研究』4、1978)の地覆石見付部分にみられる装飾的な段に相当することになる。ただし、地覆石見付部分の段は深さ3cm程度が通例であるのにたいし、本例は後世の掘削を被ってもなお段底面からの高さが11cm以上残存するため、地覆石とみることは困難と考える。一方で、直交する二面に斜交するもう一方の面は、後世の掘削痕がまったく及んでおらず、使用時の面をとどめている可能性が高い。すなわち、側面三角形を呈する本例は階段羽目石とみるのが妥当であろう。斜面部分が磨滅や風化で丸みを帯びている点もそうした見方を傍証する。その場合、外縁の段は、隣接する階段羽目石、同地覆石との結合にともなうものとなる。地覆石、階段羽目石いずれとみるにしても、外縁に装飾ないしは結合のための段を作出する本例は、豊浦寺創建時にさかのぼるものではなく、奈良時代以降の補修時のものであろう。

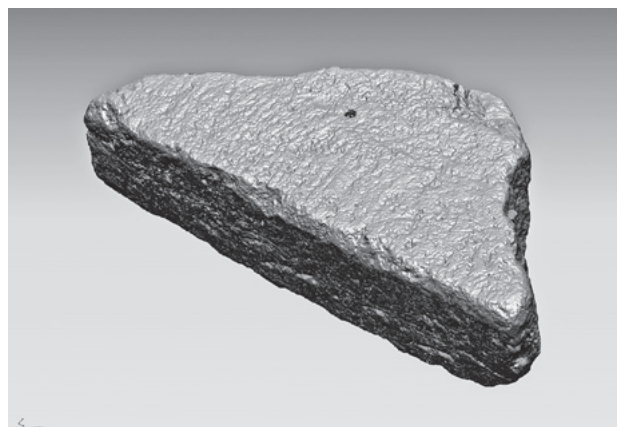
5は、本研究所飛鳥藤原地区収蔵庫に保管されているほぼ完形の地覆石である。幅80.5cm、奥行34cm、高さ18cmを測る。上面基壇側には奥行19cm、深さ1.5cmの羽目石を受ける段を彫り込み、見付側右端にはこれに直交する向きに幅10.5cm、奥行9.5cm、深さ1.5cmの階段羽目石を受けるための段を設ける。残念ながら出土地は不明であるが、本薬師寺金堂基壇例(『藤原概報23』)と同様に見付に装飾的な段をもたないことから、7世紀後半のものとみて問題ない。なお本例は、表面の遺存状態が良く、加工痕跡が明瞭に残る。7は5上面の段内部に残るチョウナ叩き技法、6は側面のチョウナ削り技法の痕跡である。地面に接することになる底面は仕上げが不徹底で粗作り時の凹凸が残るが、その他の面はチョウナ削りによって平滑に仕上げられている。これにたいして、上面段作出時のチョウナ叩きは施し方が不徹底で、基壇側の端部にはチョウナがほとんど接触せずに当初の仕上げ面が残る部分がある。一方、左右端の加工は、外部へと敲打の単位が連続しており、設置後に隣接する地覆石と一体で上面の段が削り出された様子がうかがわれる。

本稿は、平成24年度科学研究費(学術研究助成基金:若手研究B)「三次元計測による飛鳥時代の石工技術の復元的研究」(課題番号:23720396)の成果の一部である。

(廣瀬 寛)



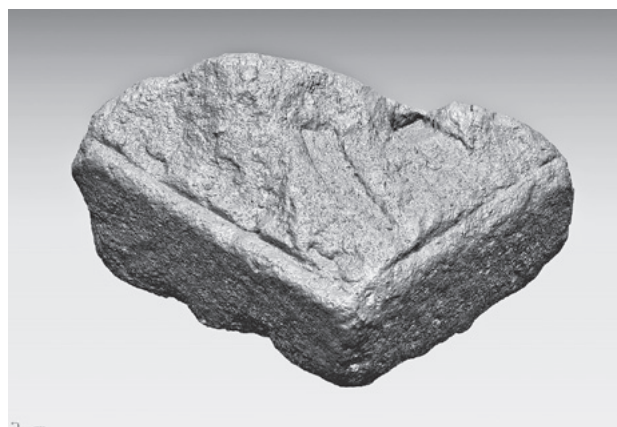
1 大官大寺講堂SB500基壇北縁出土石材



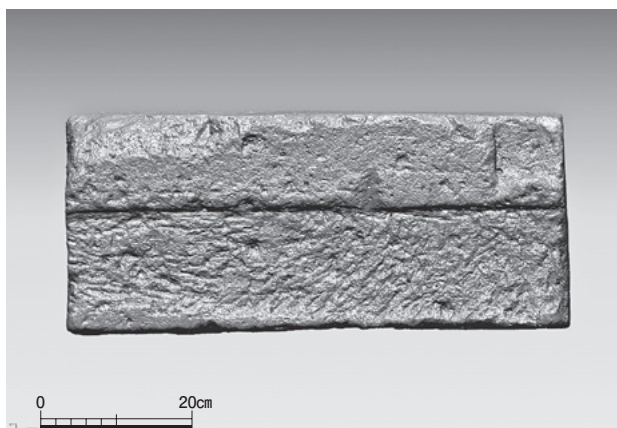
2 1の立体画像



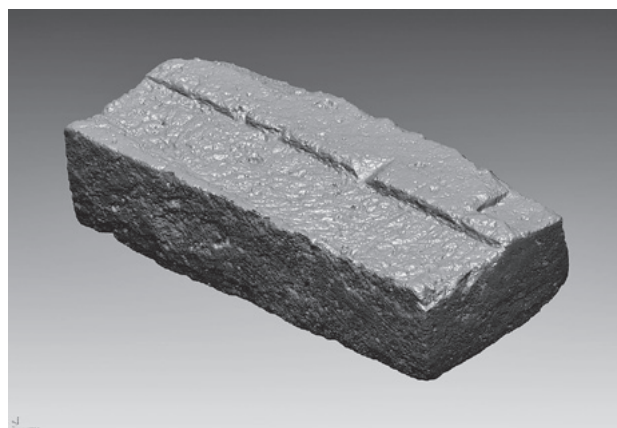
3 豊浦寺石組溝SD405出土石材



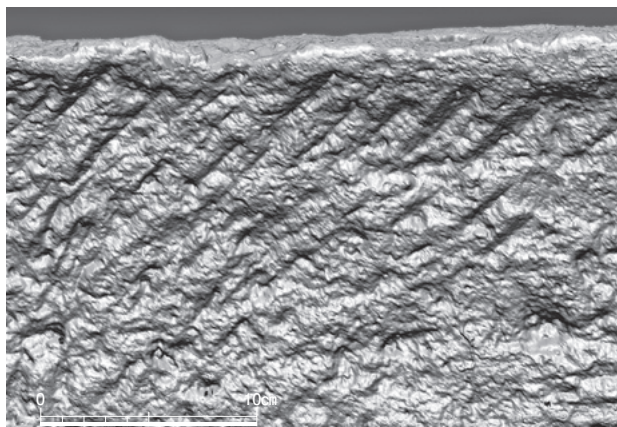
4 3の立体画像



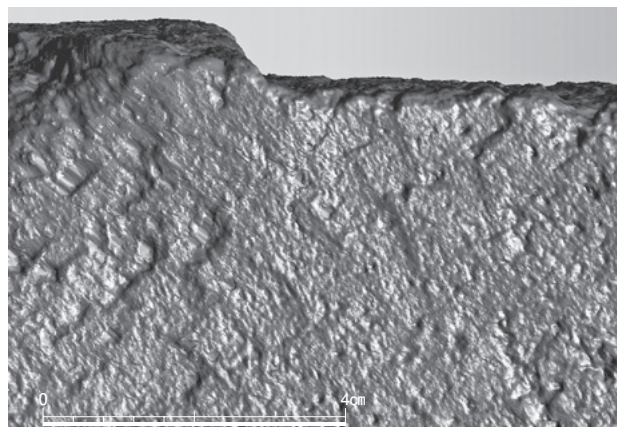
5 飛鳥藤原地域出土地覆石



6 5の立体画像



7 5上面加工痕跡細部



8 5左側面加工痕跡細部

図74 飛鳥藤原地域出土基壇外装石三次元画像